

## 武蔵野市子どもと子育て家庭への支援のあり方検討有識者会議

### 中間報告

令和3年8月

## 〈目次〉

### 1 はじめに

### 2 会議について

#### （１）設置理由

#### （２）検討事項

#### （３）設置期間

### 3 会議での検討（中間報告）

#### （１）子どもと子育て家庭への支援に関する現状の課題について

#### （２）子どもと子育て家庭への望ましい支援のあり方について

#### （３）望ましい支援を行うための複合施設の必要性

#### （４）複合施設を設置する際の基本的な考え方

#### （５）複合施設に求められる機能

### 4 今後に向けて

## （資料）

資料１ 子どもと子育て家庭への支援のあり方検討有識者会議開催実績（予定含む）

資料２ 子どもと子育て家庭への支援のあり方検討有識者会議委員名簿

## 1 はじめに

第六期長期計画及び第五次子どもプラン武蔵野に基づき、新たな複合施設の必要性の検討を行っている。

令和3年5月10日に、子どもと子育て家庭への支援のあり方検討有識者会議(以下「会議」という。)を設置し、現在検討が進められている保健センター大規模改修及び本設移転後の既存建物の利活用を想定し、検討を行った。これまで計3回の会議を開催し、主に子どもと子育て家庭への望ましい支援のあり方や新たな複合施設の必要性などについて議論した。

今後も引き続き会議での検討を行う予定であるが、新たな複合施設の必要性については一定の議論がまとまったため、これまでの会議の検討結果について、ここに「中間報告」を作成し、報告する。

## 2 会議について

### (1) 設置理由

令和2年度に実施した、子どもと子育て家庭への支援に関する新たな複合施設庁内検討委員会の検討結果を踏まえ、子どもと子育て家庭への望ましい支援のあり方及び新たな複合施設の必要性等の検討を行うため。

### (2) 検討事項

- ①子どもと子育て家庭への望ましい支援のあり方に関すること
- ②子どもと子育て家庭への支援に関する新たな複合施設の必要性に関すること
- ③上記②で新たな複合施設の必要性が認められた場合の、施設に必要な機能や規模、仕様などに関すること
- ④その他市長が必要と認めること。

### (3) 設置期間

令和3年5月10日から令和4年3月31日まで

## 3 会議での検討(中間報告)

### (1) 子どもと子育て家庭への支援に関する現状の課題について

会議においては、まず市の現状を踏まえた子どもと子育て家庭への支援に関する課題について協議を行った。会議で挙げられた主な課題は以下のとおりであった。

- ①保護者の子育てや家庭に関する課題
- ②子どもの発達に関する課題
- ③困難さの多様化に関する課題
- ④外国にルーツがある家庭に関する課題

- ⑤子どもの貧困に関する課題
- ⑥子どもの居場所に関する課題
- ⑦支援機関の連携・マンパワー等に関する課題

(参考) 子ども・子育て支援に係る相談件数等の推移

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
妊婦相談・妊婦面接(人)(※)	126	114	873	867	900	1,168
子ども家庭支援センター年間相談実件数(件)	990	1,052	1,379	1,412	1,514	1,729
健康課専門職相談件数(妊産婦・乳児・幼児)	3,228	3,380	5,075	5,556	6,577	8,713
乳幼児発達相談受診延人数(人)	371	432	431	446	573	429
地域療育相談室ハビット継続相談件数(件)	1,597	1,719	2,023	2,063	2,129	2,083
地域療育相談室ハビット相談実人数(人)	354	565	694	777	833	835
就学相談受付件数(人)	61	67	76	85	95	90
教育支援センター相談件数(件)	10,407	9,890	11,773	13,737	13,974	13,767
スクールソーシャルワーカー支援対象者数(人)	115	125	248	361	258	166

(※)平成28年度より保健センターに加え、子ども家庭支援センターでも実施

## (2) 子どもと子育て家庭への望ましい支援のあり方について

(1) で協議された課題を踏まえ、会議において、子どもと子育て家庭への望ましい支援のあり方について検討を行った。会議で出された主な意見は以下のとおりであった。

### ①切れ目のない支援体制が整っている

- ・保護者・家庭にとって相談先・支援にアクセスしやすい仕組みがあり、かつ関係機関同士の顔の見える関係が構築されていて、支援に関する細かい部分の認識まで共有ができています
- ・ライフステージを通じて、一貫した支援が受けられるような体制が整っている

### ②ポピュレーションアプローチができる

- ・すべての家庭に対し、母子保健と子育て支援の連携による、予防を重視した支援が行われる

### ③重層的な支援

- ・専門機関だけでなく、親子と一番近い地域団体等も含めた、多職種連携による重層的な支援が行われる

### ④アウトリーチができる

- ・支援サービスにアクセスすることが難しい家庭に対して、積極的にアウトリーチによる支援が行われる

### ⑤保護者への支援ができる

- ・各機関がきちんとコミュニケーションを取り、何かあったらすぐにサポートできる体制が整っている
- ・子育てに困難さを感じる保護者同士がつながることのできる日常的な交流の場がある
- ・ソーシャルワーカーが個別に寄り添って相談窓口へつなげられる
- ・必要な時に逃げて来られる場所のような、緊急時のレスパイト対応もできる

### ⑥親育ちのサポート

- ・子育ての中で、親自身が成長することのできる親支援のプログラムが準備されている
- ・学生のうちから、赤ちゃんに触れたり子育てについて学んだりすることのできる機会がある

⑦居場所がある

- ・家庭や学校などに居場所がない子どもでも利用できるような地域の居場所がある
- ・子育てに困難さを感じる保護者同士がつながることのできる日常的な交流の場がある（再掲）

⑧その他

- ・特定の困難層だけではなく、既存の施策が行き届かない層も含めて切れ目なく支援を行うことができる

### （３）望ましい支援を行うための複合施設の必要性

上記の望ましい支援を実施するために、子どもと子育て家庭への支援に関する新たな複合施設の必要性について、検討を行った。

会議では、複合施設を置くことのメリット及び課題が以下のとおり示された。

メ リ ッ ト	<ul style="list-style-type: none"><li>○同じ施設内での日常的な認識共有を通じた関係機関の連携強化が期待できること</li><li>○ライフステージを通じた一貫した支援が可能となること</li><li>○複雑な課題に対する多機関の連携による一体的な支援が可能となること</li><li>○相談機能の集約による分かりやすい総合相談窓口を設置できること</li><li>○支援情報の一元化が可能となること</li><li>○拠点としての複合施設がハブとなった他施設や地域との効果的な連携が期待できること</li><li>○子どもと子育て家庭への新たな居場所や交流の場の提供も行うことができること</li><li>○マンパワーが効率的に発揮できるような体制の整備が可能となること</li></ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"><li>○施設にこだわりすぎることによって地域との連携がおろそかにならないよう、地域連携の仕組みづくりが必要である</li><li>○もともと各地域の身近な場所で相談できていた人が、拠点となる施設ができることで、遠くまで足を運ぶことにならないよう、各地域の身近な相談場所を残すべきである</li><li>○拠点となる施設を作ることで、相談を待つ姿勢だけにならないよう、アウトリーチの体制に力を入れる必要がある</li><li>○一つの相談機関でうまく関係が築けなかったときに、他の場所で新たな相談関係を築くことができるような方法を検討する必要がある</li></ul>

会議で検討を行った結果、上記のような課題はあるものの、複合化によるメリットは大きく、子どもと子育て家庭への支援に関する新たな複合施設の必要性は認められるとの結論に至った。

#### （４）複合施設を設置する際の基本的な考え方

上述の複合施設の必要性の議論を踏まえ、今後、市として複合施設を設置することとなった場合に、どのような複合施設であることが望ましいかを検討し、以下のような意見があった。

##### ①基本的な視点

- ・既存の必要な支援・よい取り組みは残し、対応できていない課題や支援が行き届いていない部分について、複合施設で対応する
- ・相談件数が増えた時でも対応できるよう、啓発や予防も含めた全体的なシステムについて考える必要がある
- ・後から機能が付加されていくこともあるので、施設全体としてゆとりを持った設計が必要である
- ・地域の参画や多様性の視点があることが武蔵野らしさにつながる
- ・いろいろな人がいるのが自然で誰もが一緒に集まれるというメッセージ性を打ち出すことが大切である

##### ②連携システムの拠点

- ・各機能が組織的に連携する仕組みづくりが重要である
- ・単に各機関を同じ施設に入れるだけではなく、各機関を結ぶような「システムとしての複合施設」であることが必要である

##### ③重層的な支援

- ・支援がマッチしなかった場合でも、次の策が取れるような別の窓口が多層的に存在するとよい
- ・家庭への支援として考えた場合、子ども部門以外の機関とのつながりも必要である

##### ④誰ひとり取りこぼさないような支援

- ・いつでもだれでも支援が受けられるというメッセージを貫く必要がある

##### ⑤ユーザー目線

- ・子どもや家庭の視点で複合施設を考えていくのが良い
- ・入りやすい雰囲気の施設であることが重要である

#### （５）複合施設に求められる機能

上記の複合施設の基本的な考え方に加えて、具体的に施設に求められる機能についても協議を行った結果、複合施設に求められる機能として以下のようなものが挙げられた。その際、中心となる機関（組織）と、施設がソフト面で担うべき機能として考えられるものがそれぞれ以下のとおり挙げられた。

##### ①複合施設において中心となる機関

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○子育て世代包括支援センター（子ども家庭支援センター、健康課）</li><li>○児童発達支援センター</li><li>○教育支援センター</li></ul> |
|---|

## ②その他、複合施設に含むべき機能として考えられるもの

- |                         |                  |               |           |
|-------------------------|------------------|---------------|-----------|
| ○総合相談                   | ○健康診査            | ○発達支援・教育支援    | ○帰国・外国人相談 |
| ○ひろば（サロン）               | ○ファミリー・サポート・センター | ○支援者が集える場所    |           |
| ○子どもの居場所                | ○カフェのような場所       |               |           |
| ○預かり（ショートステイ・トワイライトステイ） | ○レスパイト           | ○スヌーズレン *     |           |
| ○住居の支援                  | ○災害時の支援          | ○支援機関のコーディネート |           |

\* スヌーズレン … 障害がある方にとって受け取りやすい感覚刺激に満たされた部屋等

## ③機能を考える際に重要な要素として発言があったもの

- |               |         |                  |
|---------------|---------|------------------|
| ○情報の一元化       | ○アウトリーチ | ○土日・24 時間対応／緊急対応 |
| ○子どもが行きたくなる要素 | ○デザイン性  |                  |
| ○当事者の参画       | ○地域の参画  |                  |

## 4 今後に向けて

これまで3回の会議を通じて、子どもと子育て家庭への支援における課題と、望ましい支援のあり方、さらに新たな複合施設の必要性等について検討を行った。

本有識者会議として、子どもと子育て家庭への望ましい支援を行うためには、複合施設の必要性が認められるという結論を出したが、実際に複合施設を設置するかどうかについては、別途、市としての判断がなされるものと認識している。この「中間報告」については、市として複合施設を設置すべきかどうかを判断する際、および設置する場合にはどのような施設が良いかを検討する際の参考資料として活用されたい。

今後の会議においては、市の複合施設の設置に関する判断を踏まえ、引き続き子どもと子育て家庭への支援のあり方について、検討を進める予定である。その際、市として複合施設を設置する方針であれば、会議において挙げられた複合施設に求められる機能について、具体的に精査を行う予定である。

資料1 子どもと子育て家庭への支援のあり方検討有識者会議開催実績（予定含む）

会議	開催日	議題
第1回	令和3年 5月10日（月）	（1）委員長選出 （2）副委員長選出 （3）子どもと子育て家庭への支援のあり方検討有識者会議について （4）子どもと子育て家庭への支援に関する新たな複合施設庁内検討委員会（令和2年度）検討結果について （5）子どもと子育て家庭への支援における現状の課題について
第2回	令和3年 6月15日（火）	（1）子どもと子育て家庭への支援に関する望ましい支援のあり方について （2）子どもと子育て家庭への支援に関する新たな複合施設の必要性について
第3回	令和3年 7月6日（火）	（1）施設の複合化に関する市の検討状況について （2）複合施設に必要な機能について （3）中間のまとめに向けて
第4回	令和3年 10月1日（金）	未定
第5回	令和3年 11月18日（木）	未定

資料2 子どもと子育て家庭への支援のあり方検討有識者会議委員名簿

	氏名	役職
1	橋本 創一（委員長）	東京学芸大学 教育実践研究支援センター 教授
2	箕輪 潤子（副委員長）	武蔵野大学 教育学部幼児教育学科 准教授
3	平沼 勝也	みどりのこども館 館長
4	富樫 京子	保育相談員
5	大田 静香	武蔵野市助産師会 会長
6	松田 妙子	NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 理事
7	加藤 篤彦	武蔵野東第一・第二幼稚園 園長
8	西巻 民一	西久保保育園 園長
9	赤羽 幸子	武蔵野市立井之頭小学校 校長
10	菅野 由紀子	武蔵野市立第二中学校 校長
11	勝又 隆二	武蔵野市子ども家庭部長



武蔵野市子どもと子育て家庭への支援のあり方検討有識者会議 中間報告

令和３年８月

武蔵野市子どもと子育て家庭への支援のあり方検討有識者会議

担当課：武蔵野市子ども家庭部子ども子育て支援課